

平成28年7月29日(金)

2016年 全国コミュニティ・スクール研究大会in由利本荘
第五分科会 高等学校・特別支援学校とコミュニティ・スクール

見附市立見附特別支援学校

地域とつながる確かな ネットワークの構築を目指して

見附市立見附特別支援学校

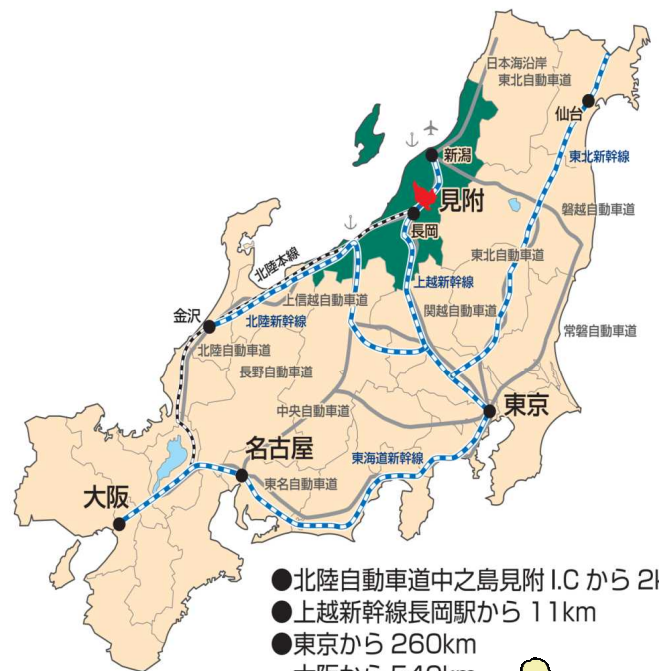
校長 小玉 義明

見附市教育委員会 学校教育課

菊地 建

見附市の概況 (平成28年4月1日現在)

- 人口 : 41,313人 (H28.4.1)
- 世帯数 : 14,476世帯 (//)
- 面積 : 77.91km²
- 位置 : 新潟県の中央(重心点)
- 市立学校数 : 小学校 8校
中学校 4校
特別支援学校 1校



交流の拠点



見附のイメージキャラクター
ニットの妖精「ミツケ」



見附市のコミュニティ・スクール①

H18～19年度

新教育システム開発プログラム事業

H20～22年度

学校支援地域本部事業

H20年度～

学校評価の充実改善事業

熟議・協働

H23年度～

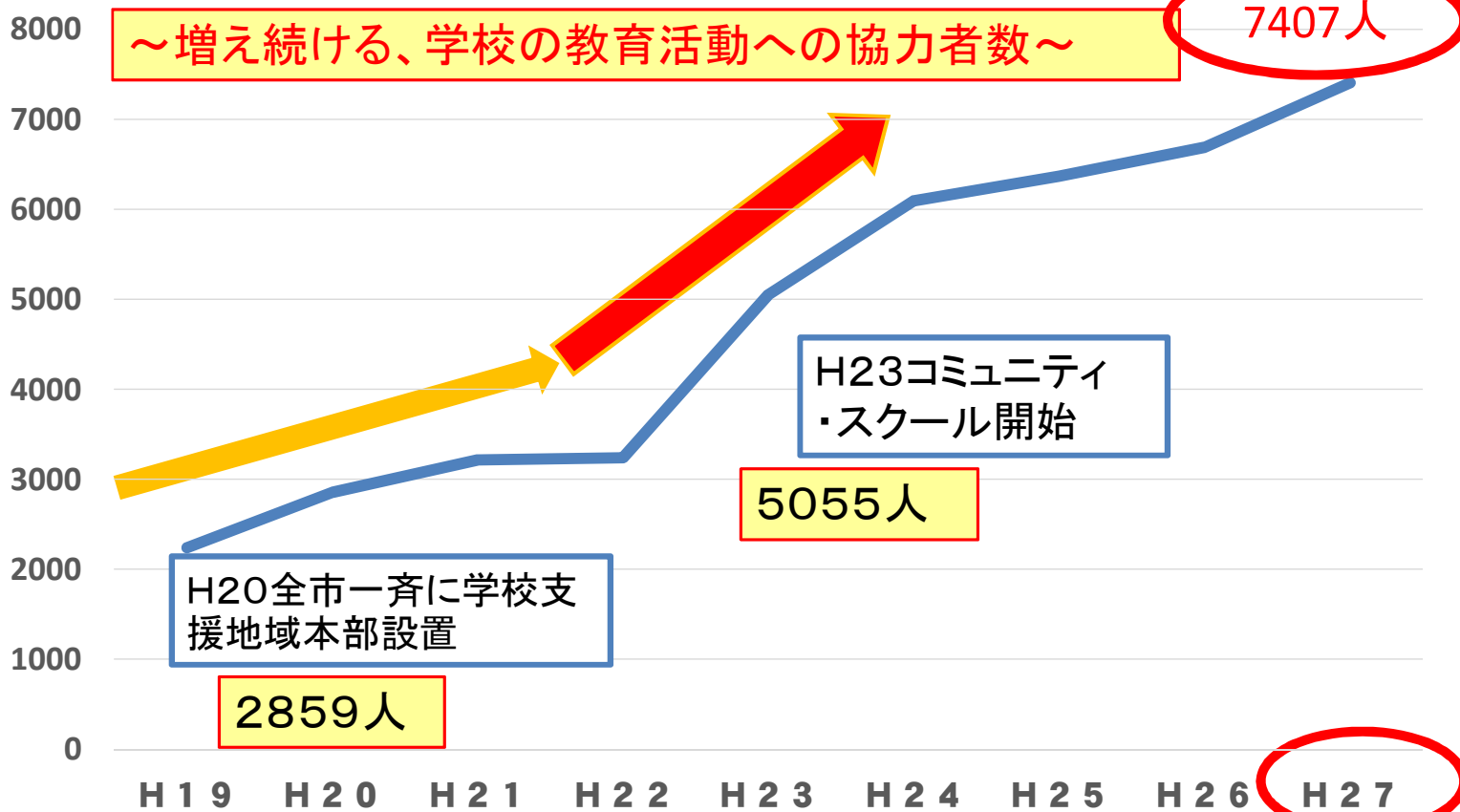
コミュニティ・スクール事業

マネジメント

見附市のコミュニティ・スクール②

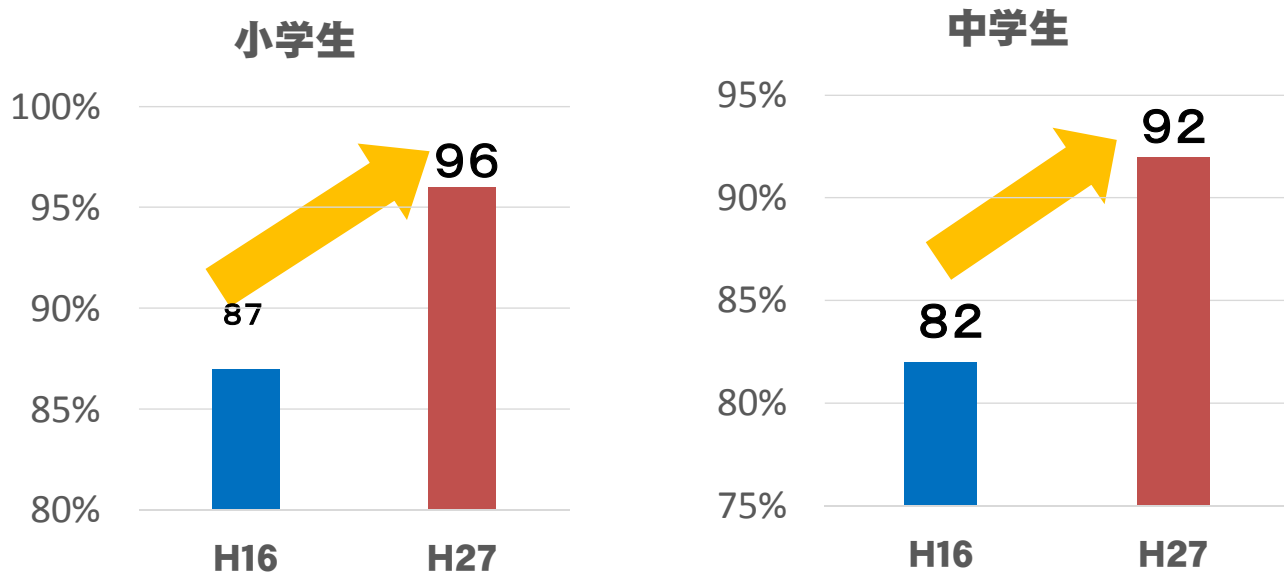
- ◆「共創郷育」の理念を軸に、各種の取組の成果を得ながら段階的にCSへと発展
- ◆小・中・特 13校全校で実施
 - H25.4.1 市内全小学校(8校)・中学校1校をCS指定
 - H26.4.1 中学校3校・見附特別支援学校をCS指定
- ◆文部科学省と連携し、市教委主催のCS研修会を毎年実施

保護者や地域の協力の広がり



見附や地域への愛着

「あなたの住んでいる地域や見附市が好きですか」という問いに「好き」と回答した割合



「市内共通アンケート」の比較より

学 校 紹 介

見附特別支援学校

◆知的障害を主障害とする特別支援学校

◆小学部・中学部・高等部に50名
(小学部:17名・中学部:5名・高等部:28名)

◆隣接する名木野小学校と廊下でつながる
(日常的な様々な交流活動が充実)



◆切り結ぶラインは名木野小学校や地域の方々との絆を表し、連携の中で子供たち(●)が育まれることを願ってつくられたもの

沿革

まごころ養護学校

昭和38年 障がい児入所施設「まごころ学園」内に「まごころ養護学校開校
(見附小学校・上北谷中学校の分校)

養護学校の義制実施

昭和54年 見附市立まごころ養護学校開校 (本校化：まごころ学園併設)

平成14年 見附市立まごころ養護学校閉校

見附特別支援学校

平成14年 見附市立見附養護学校開校 現在の地に移転

特殊教育から特別支援教育への転換・高等部希望者の増加

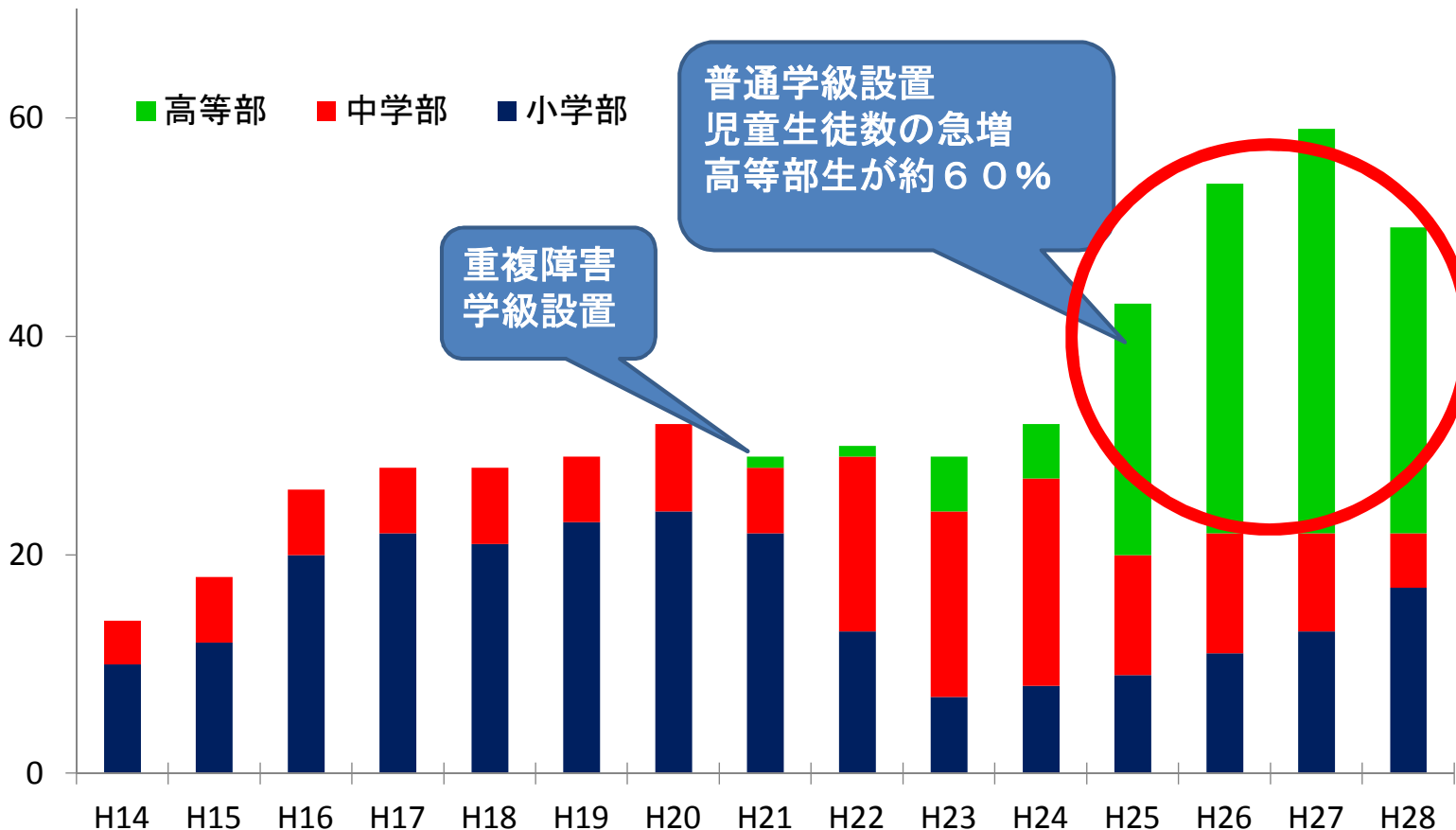
平成21年 高等部重複障害学級設置

平成23年 校名を見附市立見附特別支援学校に変更

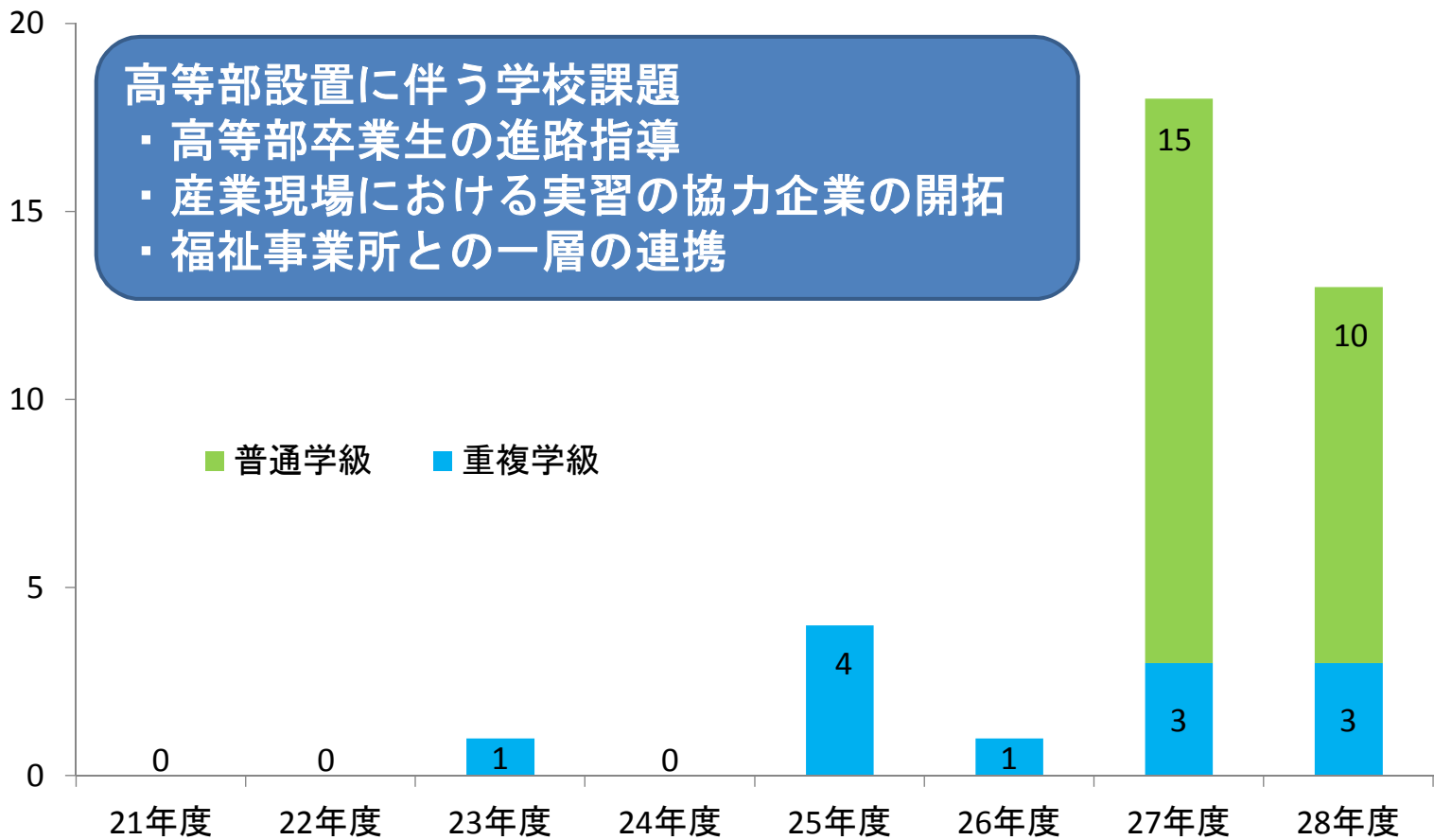
平成25年 高等部普通学級設置

高等部卒業生の進路開拓が大きな課題に

高等部設置による在籍者の増加



高等部卒業生数の推移



コミュニティ・スクールの のスタート



地域とともに

地域？→学区？→見附市全域？

- 障がいのある子供たちに関わる関係機関が点在
- 点在する関係機関と学校を繋ぐネットワークがあれば

開校と同時に研究開発

◆地域社会で生きていく力を育てるためのカリキュラム開発（H14～16・文部科学省指定）

「家庭生活」「社会生活」／「ライフ」「職業生活」

◆子供たちの生活にかかわる方をパートナーとしてとらえ、協力・連携しながら社会生活への移行を目指す。

- 地域社会や地域の関係機関との連携のもとに教育活動を進めてきた。
- 共創郷育を推進する「みつけコミュニティ・スクール」の理念と合致する。

学校支援地域本部事業

平成20年～

- 環境整備作業にボランティアを募る。
- 学校行事にボランティアを招待する。

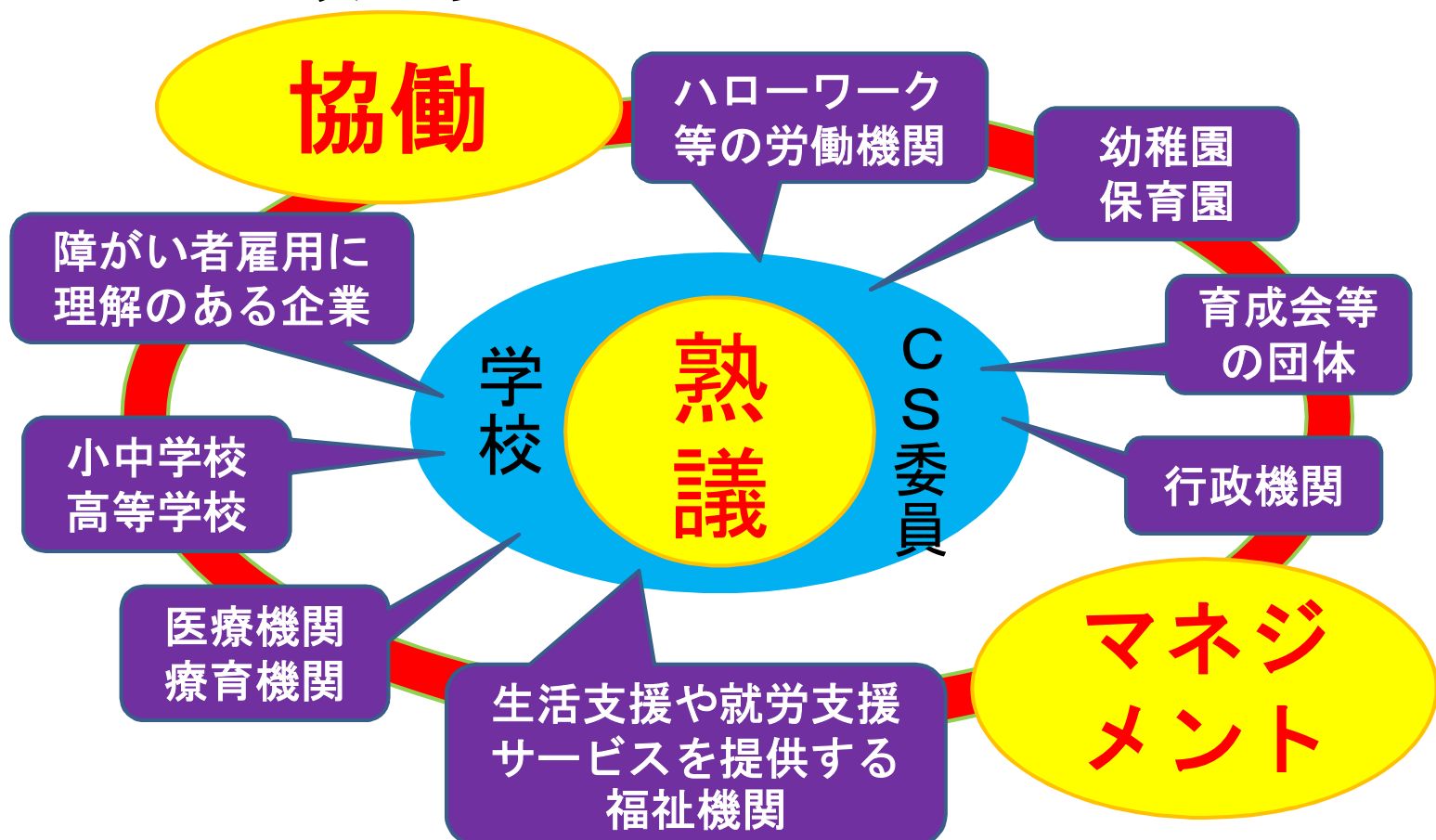
学校支援本部事業においては、教育活動の直接的な支援は少なく、環境整備への支援や障がいのある子供たちや特別支援学校、特別支援教育について理解を深めるための活動に重点をおいて取り組んできた。

地域とつながる確かなネットワークの構築

- ◆学校教育目標の具現化のため
「地域で豊かに自分らしく生きる」
- ◆学校生活から地域生活へスムーズに移行するための途切れない支援の基盤作りのため
- ◆地域と学校が一体となって障がいのある子供たちを育てていくため
- ◆高等部卒業生の進路開拓につなげていくため

障がいのある子供たちの地域生活を支えるネットワーク会議

顔の見えるネットワーク



ネットワークの中核となるCS委員

- 見附市手をつなぐ育成会 会長
- 障がい児入所施設 園長
- 福祉事業所 施設長（3名）
- 学習活動協力施設(総合体育館) 館長
- 地域関係者（1名）
- PTA役員（2名）

計9名

- 校長・教頭・教務主任



第1回 ネットワーク会議

平成26年10月24日(金)

◆協議題

「障がいのある子供たちの社会的自立のためにできること」

◆内容 パネリスト6名によるシンポジウム

◆参加者 25名

- ・福祉事業所関係者 11名
- ・一般企業関係者 9名
- ・行政関係者 2名
- ・その他 3名

パネリスト 就労支援を重視した関係機関

- 社会福祉協議会 地域福祉係長
- 障がい者就業・生活支援センター
主任ケースワーカー
- 就労支援事業所施設長
- CS委員
- 当校職員（高等部主事）



第1回ネットワーク会議から

- ◆学校の取組をもっと地域社会に発信し、相互理解を深めていく場になっていくとよい。
- ◆見附市内には、様々なコミュニティがある。
就労支援に特化するのではなく、様々な関係機関や団体等と日常的な関わりがもてるとよい。
- ◆企業での見附特別支援学校の認知度は低い、
商工会等との連携を強化する必要がある。

第2回 ネットワーク会議

平成27年10月27日(火)

◆協議題

「障がいのある子供たちの社会的自立のためにできること」

◆内 容

○関係機関からの情報提供とグループ協議

◆参加者 24名

・福祉事業所関係者	9名
・一般企業関係者	5名
・行政関係者	3名
・その他	7名

地域生活を支える関係機関からの情報提供

○就労移行支援施設

施設長

○障がい者雇用企業

工場長

○相談支援事業所

専門相談員



○ふれジョブみつけ 代表

○障がい者スポーツサークル 代表

第2回ネットワーク会議から

- ◆ 子供たちのできる姿をもっといろいろな形で発信できると相互理解に繋がっていく。
- ◆ 当事者、保護者(市民)、学校関係者、市の職員、市議会議員、各地域の方々等、もっとたくさんの方に参加してもらうことが、理解を深めるために大切と感じた。
- ◆ 時間配分に問題があった。グループ協議でテーマと所属団体との課題をつなげる時間がなかった。

第3回 ネットワーク会議

平成28年10月28日(金)

- ◆ 高等部卒業生の卒業後の状況や卒業生の定着支援・アフターケアに焦点をあてたテーマで
- ◆ 当事者や保護者の参加を含め、より多くの方から参加していただける会議に

ネットワークを活用した キャリア教育の充実

子供たちの勤労観・職業観を育て、将来の社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育

理念や価値観を共有するために

◆公開講座の実施

「障がいのある子供たちのキャリア教育」

～自尊感情と幸せに生きる力～

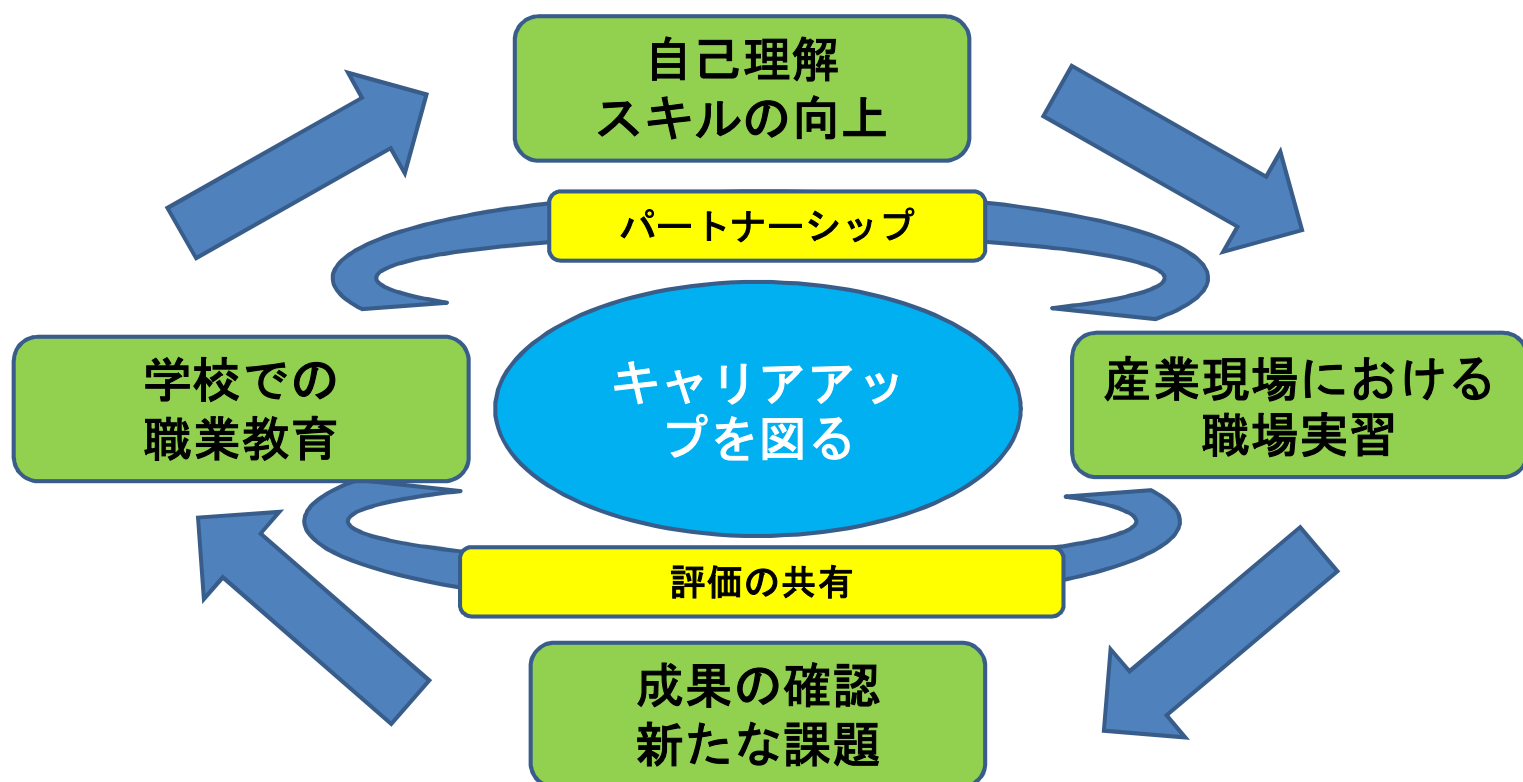
筑波大学附属大塚特別支援学校

安部 博志先生

◆それぞれの立場を超えて連携の在り方を考える機会に



ネットワークの中で、キャリア教育のサイクルを生み出す



産業現場での実習に取り組む生徒



見えてきた 成果と課題

教育活動への協力者の増加

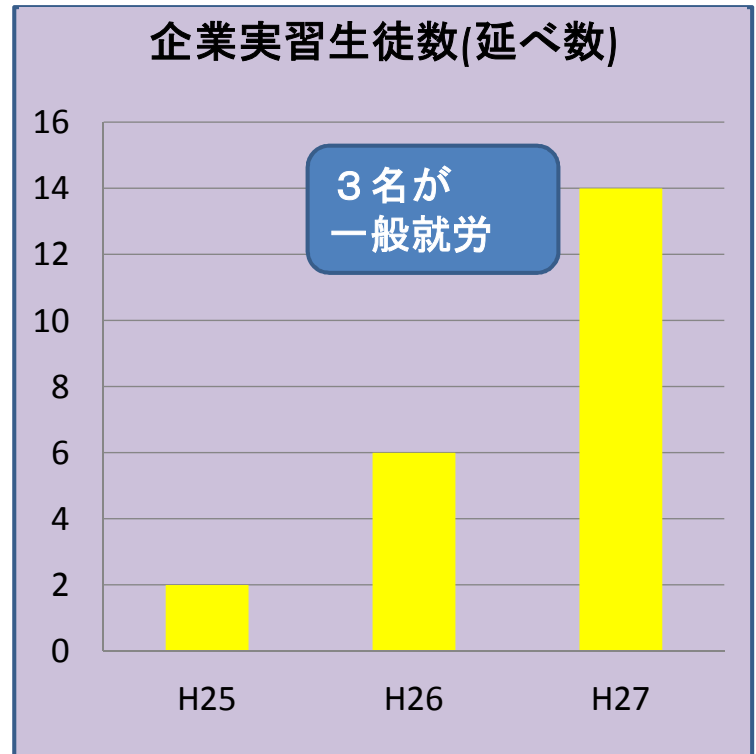
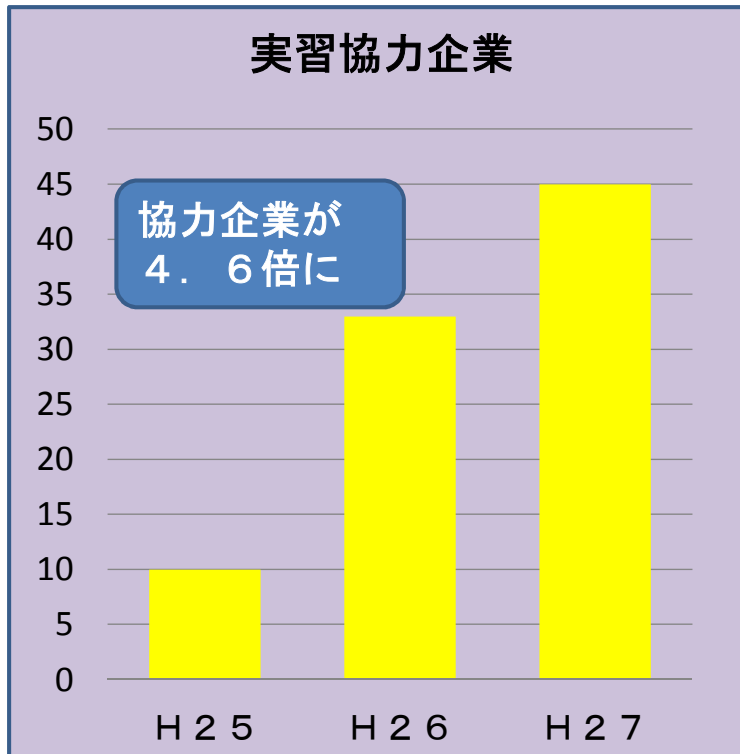




花いっぱい環境



実習協力企業の増加



見附市自立支援協議会への参加 H27年度～

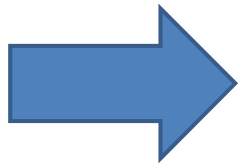
◆より大きなネットワークの中で

○「ふるさと見附で暮らしたい、働きたい」という願いに応えられる学校に

○ライフステージに応じた途切れない支援の一翼を担う学校に

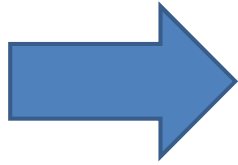
暮らす・働く・楽しむを支えるために

◆多様な実習の形態に対応できる企業の開拓



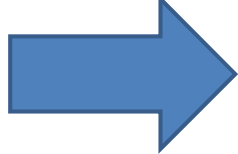
デュアルシステムによる実習の導入

◆放課後支援の充実



学校施設の有効活用・行政の支援

◆余暇活動の充実



余暇を楽しめる場や支援者の確保

校長の想い

コミュニティ・スクールは学校づくり、街づくり。
障がい者にやさしい街、障がい者が暮らしやすい街は、全ての人が暮らしやすい街となる。「やさしい絆のまち みつけ」の街づくりに貢献できる学校でありたい。

ご静聴ありがとうございました